



# Release

フランクフルト・アム・マイン

2020年7月29日

## ドイツ銀行、2020年第2四半期に1億5,800万ユーロの税引前利益を計上、改革は着実に進展

### 2020年第2四半期、事業再編および信用損失引当金の増加にもかかわらず、利益を計上

- ドイツ銀行グループは、2019年第2四半期の9億4,600万ユーロの税引前損失に対し、2020年第2四半期において1億5,800万ユーロの税引前利益を計上
- 純損益については、前年同四半期の改革に関連する影響を含む31億ユーロの純損失に対し、6,100万ユーロの純利益
- 信用損失引当金は経営陣の想定に沿う7億6,100万ユーロ、貸出金に対する割合を35から45ベースポイントとする通年の指標を再確認

### 2020年第2四半期のコア・バンクの収益状況

- 前年同四半期の税引前損失に対し、7億5,300万ユーロの税引前利益を計上
- 純利益は4億8,900万ユーロ、税引後有形株主資本利益率<sup>1</sup>は3.4%

### 前年同四半期に比べ収益は増加

- 当グループの純収益は、株式事業からの撤退にもかかわらず1%増加し、63億ユーロ
- コア・バンクの純収益は、6%増加して64億ユーロ、特定項目<sup>1</sup>を除いたベースでは、8%増加して63億ユーロ
- インベストメント・バンクの純収益は、前年同四半期から46%増加、特定項目<sup>1</sup>を除いたベースでは52%増加

### コスト削減を継続

- 利息以外の費用は、前年同四半期から23%減少し、54億ユーロ
- 改革費用<sup>1</sup>を除く調整済コストは、プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除いたベースで10%減少し、48億ユーロ

### 改革は大きく前進

- ドイツにおいて、プライベート・バンクの法的統合が完了
- ウェルス・マネジメントとプライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス（インターナショナル）を統合し、インターナショナル・プライベート・バンクを新設
- ドイツにおけるコーポレート・バンクの統合を完了
- サステナブル・ファイナンスおよびサステナブル投資について、2,000億ユーロの目標を設定
- クラウド・サービスに関するグーグルとのパートナーシップ契約への合意を発表

<sup>1</sup>本項目およびその他のGAAP以外の財務的測定尺度の詳細については、14頁以下の「GAAP以外の財務的測定尺度の使用について」をご参照ください。

CEOのクリスティアン・ゼーヴィングは、次のように述べています。「厳しい環境の中、当行は収益を伸ばし、コスト削減を続け、すべての目標達成に向けて順調に前進しています。その結果、信用損失引当金の増加を上回る収益を上げ、困難な状況下において顧客を支援しつつ、黒字を維持することができました。当行の強固な資本基盤は、その高い対応力を示すのみならず成長機会を提供しています。」

**ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBKGn.DB/NYSE:DB）**は、事業再編を進め、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックの影響を受けたにもかかわらず、増収増益となり、2019年7月に発表した大規模な改革においても着実に前進しています。コア・バンクにおける増収は、継続中のコスト削減の進展と相まって、2020年第2四半期において7億6,100万ユーロに増加した信用損失引当金（この増加は経営陣の想定に沿うものであり、主に新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響によるものでした）を相殺するのに十分な額となりました。2020年第2四半期、普通株式等 Tier 1 (CET 1) 資本比率は 13.3%に上昇し、規制要件を 283 ベーシスポイント上回りました。

## 中核事業による増益

2020年第2四半期の**税引前利益**は、2億8,000万ユーロの改革に関連する影響および1億2,400万ユーロの銀行税費用を計上したベースで、1億5,800万ユーロとなりました。2019年第2四半期においては、のれんの減損およびその他の改革に関連する影響を計上したベースで、9億4,600万ユーロの税引前損失でした。

2020年第2四半期の**純利益**は6,100万ユーロでした。2019年第2四半期においては31億ユーロの純損失で、これには主に、繰延税金資産（DTA）の評価調整額、のれんの減損およびソフトウェアの減損による34億ユーロの改革に関連する影響が計上されていました。2020年第2四半期の純利益には、3億1,000万ユーロの改革に関連する影響が計上されています。

**2020年上半期において**、2019年上半期が6億5,400万ユーロの税引前損失であったのに対し、3億6,400万ユーロの税引前利益となりました。純損益については、前年上半期において主に上記の改革に関連する影響により29億ユーロの純損失であったのに対し、1億2,600万ユーロの純利益となりました。

2020年第2四半期の**信用損失引当金**は7億6,100万ユーロで、貸出金に対する割合は69ベーシスポイント（年率）となり、2020年第1四半期の5億600万ユーロ、貸出金に対する44ベーシスポイント（年率）から増加しました。これは経営陣の想定に沿うものであり、3月31日時点に比べたマクロ経済の見通しの悪化、見通しの不確実性を勘案した経営陣による上乘せの判断、および顧客の信用格付けの引き下げを反映したものです。当行は、貸出金に対する信用損失引当金の割合を35から45ベーシスポイントとする2020年通年の指標を再確認しています。

キャピタル・リリース・ユニットを含まない**コア・バンク**は、2020年第2四半期において、前年同四半期の1億8,000万ユーロの税引前損失に対し、7億5,300万ユーロの税引前利益を計上しました。これは、収益が6%増加し、利息以外の費用が19%減少したことによるものです。

コア・バンクの調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同四半期から11%増加し、9億3,500万ユーロとなりました。この金額には、2020年第2四半期における特定収益項目による4,100万ユーロのプラスの影響、4,100万ユーロの改革費用、1億8,200万ユーロの再編および退職費用は含まれていません。これらに基づく2020年第2四半期のコア・バンクの税引後有形株主資本利益率<sup>1</sup>は4.3%でした。

**2020年上半期において**、コア・バンクの税引前利益は、前年上半期の2倍超に増加し、17億ユーロとなりました。調整後税引前利益<sup>1</sup>は、21%増加して20億ユーロとなり、これに基づく税引後有形株主資本利益率<sup>1</sup>は5.1%でした。

**キャピタル・リリース・ユニット**は、前年同四半期から22%損失が減少して、5億9,500万ユーロの税引前損失を計上しました。純収益は、撤退した事業およびリスク削減コストの影響を反映して、前年同四半期の2億2,100万ユーロの純収益に対し7,000万ユーロのマイナス収益となりました。

利息以外の費用は50%減少して4億9,600万ユーロとなり、改革費用を除く調整済みコストは、30%減少して4億3,000万ユーロとなりました。この減少は、内部サービスコストの配分の減少と人員削減を反映した報酬関連費用の減少、ならびに非報酬関連費用の減少によるものでした。

キャピタル・リリース・ユニットはさらに、レバレッジ・エクスポージャーを削減し、2020年第2四半期のレバレッジ・エクスポージャーは、同年第1四半期から160億ユーロ減少して1,020億ユーロとなりました。リスク・ウェイトド・アセット（RWA）は、2020年第1四半期から4%、2019年第2四半期から34%減少して430億ユーロとなりました。2020年第2四半期におけるリスク削減の進展は、ボラティリティの高い金融市場環境によるマーケット・リスク RWA の増加により、一部相殺されました。

**2020年上半期において**、キャピタル・リリース・ユニットは、前年上半期から4%損失が増加して14億ユーロの税引前損失を計上し、レバレッジ・エクスポージャーは2019年度末から250億ユーロ削減されました。同ユニットは、2022年のリスク削減目標達成に向けて順調に前進しています。

### 資本およびバランスシートの健全性

2020年第2四半期末現在の**普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率**は、2020年第1四半期末の12.8%から13.3%に増加しました。第1四半期からの42ベースポイントの増加は、複数のプラス要因によるもので、これらの要因には、顧客によるクレジット・ファシリティの返済を含む新型コロナウイルス感染症に関連するプラスの影響、資本要件規制2（CRR2）に対するEUの「応急的措置」の早期実施による恩恵、および2020年第2四半期中におけるキャピタル・リリース・ユニットによるリスク削減の進展が含まれます。

2020年第2四半期において、**レバレッジ比率**は20ベースポイント上昇し、4.2%（完全適用ベース）となりました。これは主に、CRR2に対する上記の「応急的措置」の実施による未決済残高の取扱いの変更を反映したものです。2020年第2四半期末現在、欧州中央銀行への現金預金を除いたレバレッジ比率（完全適用ベース）は、試算ベースで4.4%に上昇しました。段階的導入ベースによるレバレッジ比率は、第2四半期において4.1%から4.3%に上昇しました。

**流動性準備金**は、上記の顧客による借入れの返済やコア・バンクにおける預金の増加により、2020年第2四半期において280億ユーロ増加し、2,320億ユーロとなりました。同年第2四半期、流動性カバレッジ比率は144%に上昇し、規制要件である640億ユーロを上回りました。

### サステナブル・ファイナンス：新たな目標および方針の強化

2020年5月12日、当行はサステナビリティ基準について初の定量的目標を公表しました。当行は2025年末までに、環境・社会・ガバナンス（ESG）ファイナンスの取引高とサステナブル投資の運用ポートフォリオを増加させ、総額2,000億ユーロ以上とすることを目指します。

また当行は、化石燃料およびエクセター原則という重要分野において、方針の枠組みを強化しました。化石燃料に関する新方針の一環として、当行は今週、世界各地における石炭採鉱に関する当行の事業活動を遅くとも2025年までに停止するというコミットメントを発表しました。また、北極地区における石油およびガス関連プロジェクトならびにオイルサンド・プロジェクトへの資金供給を即時中止し、石油およびガス部門の既存取引のすべてについて、2020年末までに見直しを行います。

さらに当行は、ドイツ金融業界における気候行動への共同コミットメントに署名し、当行の信用ポートフォリオをパリ協定の目標に一致させることを約束しています。これには、気候に対する信用ポートフォリオの影響の測定手法を2022年末までに導入し、国内および国際的な気候目標に基づいて信用ポートフォリオの規制を行うというコミットメントが含まれます。

## コア・バンクの収益が増加

2020年第2四半期、**コア・バンクの純収益**は、前年同四半期から6%（特定項目を除くと8%）増加して、64億ユーロとなりました。特定項目には、債務評価調整、インベストメント・バンクにおける投資評価の変動、およびプライベート・バンクにおけるサル・オープンハイムのポジションのワークアウト業務が含まれます。

**コーポレート・バンクの純収益**は、前年同四半期から3%増加し、13億ユーロとなりました。グローバル・トランザクション・バンキングの収益は、4%増加し、9億6,500万ユーロとなりました。コマース・バンキングの収益は、前年同四半期とほぼ同水準の3億6,300万ユーロとなりました。コーポレート・バンクの収益は、信用損失引当金の取戻しやポートフォリオの見直しに向けた施策の影響を除くと、前年同四半期から若干減少しました。これは、低金利環境の逆風による影響が、預金の金利改定実施の進展、預金残高の増加およびバランスシート管理による影響を上回ったためです。

**インベストメント・バンクの純収益**は、前年同四半期から46%（特定項目を除くと52%）増加し、27億ユーロとなりました。債券および為替（FIC）セールス／トレーディングの収益は、39%（特定項目を除くと46%）増加し、21億ユーロとなりました。ファイナンスおよび特定項目を除いたFICセールス／トレーディングの収益は、75%超増加しました。金利は、第2四半期としてはこの10年間で最高の収益を計上し、外国為替およびエマージング・マーケットの収益も、ともに前年同四半期から大きく増加した一方、ファイナンスは前年同四半期とほぼ同水準でした。オリジネーションとアドバイザリーの収益は、債券オリジネーションおよび株式オリジネーションの大幅な増加を受け、前年同四半期から73%増加し、6億3,900万ユーロとなりました。アドバイザリーの収益は、市場での取引が低調であったことを受け、大きく減少しました。

**プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期から5%減少して、20億ユーロとなりました。この減少は戦略的目標の実行に関する一定の事項を反映したものです。また、新型コロナウイルス感染症および継続している預金マージン圧縮の影響が、取引高の継続的な増加によるプラスの影響を相殺しました。プライベート・バンク（ドイツ）の収益は、ドイツにおける法的統合による影響などを反映して5%減少し、12億ユーロとなりました。プライベート・アンド・コマース・ビジネス（インターナショナル）の収益は、イタリアおよびスペインにおける新型コロナウイルス感染症の影響などを受け、12%減少して3億2,400万ユーロとなりました。ウェルス・マネジメントの収益は、事業成長が新型コロナウイルス感染症および金利の逆風の大部分を相殺して、1%減少し、4億2,400万ユーロとなりました。

新型コロナウイルス感染症の当初の影響が和らいだ後、経済活動が再開するにつれ、いくつかの主要分野において取引高が戻りました。プライベート・バンクにおいては、新規顧客への30億ユーロの貸出しを行い、投資商品からの純資金流入は前年同四半期の10億ユーロから50億ユーロとなりました。

**アセット・マネジメントの純収益**は、8%減少して、5億4,900万ユーロとなりました。これは主に、前年同四半期にあったインフラストラクチャー・ファンドに関する定期的な運用報酬が発生しなかったことによります。

2020年第2四半期において、運用資産は450億ユーロ増加して7,450億ユーロとなりました。この中には90億ユーロの純資金流入が含まれ、これは2020年第1四半期の20億ユーロの資金流出を回復するのに十分であり、また前年同四半期の純資金流入の2倍を超える水準となりました。

**2020年上半期**のコア・バンクの純収益は、前年上半期から7%増加して128億ユーロ、特定項目を除いたベースでは7%増加して127億ユーロとなりました。

## コスト削減はさらに進展

2020年第2四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から23%減少し、54億ユーロとなりました。この減少は、前年同四半期に計上されたのれんの減損10億ユーロがなかったこと、また改革費用が、前



年同四半期のソフトウェアの減損および既存のサービス契約に対する引当金による3億5,100万ユーロから9,500万ユーロに減少したことなどを反映したものです。

2020年第2四半期の**改革費用を除く調整済コスト**は、前年同四半期から8%減少して、49億ユーロとなり、プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用9,200万ユーロを調整したベースでは、10%減少して48億ユーロとなりました。これは、銀行税および改革費用を除く調整済コストが、前年同四半期との比較で10四半期連続で減少したことを意味します。当行は、改革費用および上記の返還される可能性のある費用を除く2020年通年の調整済コストを、2019年の215億ユーロから削減して、195億ユーロとする目標を再確認しました。

改革費用を除く報酬費用は、前年同四半期から1億9,200万ユーロ減少しました。この減少は、2019年第2四半期以降、常勤相当で4,000人を超える人員を削減したことや、勤続期間に関する推定値変更の影響を含む繰延報酬費用の変動によるプラスの影響によるものです。情報技術(IT)コストは、主にソフトウェアの償却額の減少を受けて、前年同四半期から1億4,600万ユーロ減少しました。ITへの支出額はほぼ同水準で、当行のIT投資プログラムを継続するにあたり目標とする範囲内でした。専門家サービス報酬は、厳格な外部費用管理を反映して、4,100万ユーロ削減されました。

これらの費用減少は、1億2,400万ユーロの銀行税によって一部相殺されましたが、これには単一破綻処理委員会が設定する想定を変更したことにより生じ、2020年第1四半期には計上されなかった1億1,800万ユーロが含まれています。

**2020年上半期**の利息以外の費用は、前年上半期から15%減少して、110億ユーロとなりました。改革費用およびプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除く調整済コストは、前年上半期から10%減少して102億ユーロとなりましたが、これには2020年下半期には計上が想定されない銀行税6億2,700万ユーロが含まれています。

## グループ業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	6月30日に 終了の 3カ月間	6月30日に 終了の 3カ月間			6月30日に 終了の 6カ月間	6月30日に 終了の 6カ月間		
<b>純収益:</b>								
内:								
コーポレート・バンク(CB)	1,328	1,294	34	3	2,653	2,636	18	1
インベストメント・バンク(IB)	2,654	1,823	831	46	4,993	3,811	1,182	31
プライベート・バンク(PB)	1,981	2,087	(106)	(5)	4,142	4,212	(70)	(2)
アセット・マネジメント(AM)	549	594	(45)	(8)	1,068	1,119	(51)	(5)
キャピタル・リリース・ユニット(CRU)	(70)	221	(291)	N/M	(129)	608	(737)	N/M
コーポレートおよびその他(C&O)	(154)	184	(338)	N/M	(91)	168	(259)	N/M
<b>純収益合計</b>	<b>6,287</b>	<b>6,203</b>	<b>84</b>	<b>1</b>	<b>12,637</b>	<b>12,554</b>	<b>84</b>	<b>1</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>761</b>	<b>161</b>	<b>600</b>	<b>N/M</b>	<b>1,267</b>	<b>301</b>	<b>966</b>	<b>N/M</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	2,645	2,813	(168)	(6)	5,334	5,679	(345)	(6)
一般管理費	2,599	3,089	(490)	(16)	5,474	6,159	(685)	(11)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	1,035	(1,035)	N/M	0	1,035	(1,035)	(100)
再構築費用	123	50	74	148	197	33	164	N/M
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>5,367</b>	<b>6,987</b>	<b>(1,620)</b>	<b>(23)</b>	<b>11,006</b>	<b>12,906</b>	<b>(1,901)</b>	<b>(15)</b>
<b>税引前利益(損失)</b>	<b>158</b>	<b>(946)</b>	<b>1,104</b>	<b>N/M</b>	<b>364</b>	<b>(654)</b>	<b>1,018</b>	<b>N/M</b>
法人所得税費用	97	2,204	(2,107)	(96)	238	2,295	(2,057)	(90)
<b>純利益(損失)</b>	<b>61</b>	<b>(3,150)</b>	<b>3,210</b>	<b>N/M</b>	<b>126</b>	<b>(2,949)</b>	<b>3,075</b>	<b>N/M</b>
非支配株主に帰属する純利益	32	40	(8)	(20)	56	63	(7)	(12)
ドイツ銀行株主およびその他の資本 構成要素に帰属する純利益(損失)	28	(3,190)	3,218	N/M	71	(3,012)	3,083	N/M
その他の資本構成要素に帰属する 純利益	105	82	23	28	190	162	28	17
ドイツ銀行株主に帰属する純利益 (損失)	(77)	(3,272)	3,195	(98)	(120)	(3,174)	3,055	(96)
<b>普通株式等 Tier 1 資本比率</b>	<b>13.3 %</b>	<b>13.4 %</b>	<b>(0.2) ppt</b>	<b>N/M</b>	<b>13.3 %</b>	<b>13.4 %</b>	<b>(0.2) ppt</b>	<b>N/M</b>
<b>レバレッジ比率(完全適用ベース)</b>	<b>4.2 %</b>	<b>3.9 %</b>	<b>0.2 ppt</b>	<b>N/M</b>	<b>4.2 %</b>	<b>3.9 %</b>	<b>0.2 ppt</b>	<b>N/M</b>

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	6月30日に 終了の 3カ月間	6月30日に 終了の 3カ月間			6月30日に 終了の 6カ月間	6月30日に 終了の 6カ月間		
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	442	419	23	5	442	419	23	5
預金(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	573	577	(4)	(1)	573	577	(4)	(1)
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	86,824	90,866	(4,042)	(4)	86,824	90,866	(4,042)	(4)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## セグメント別業績

### コーポレート・バンク (CB)

**2020年第2四半期の純収益**は、前年同四半期から3%増加し、13億ユーロとなりました。収益は、信用損失引当金の取戻しの増加やポートフォリオの見直しに向けた施策の影響の恩恵を受けました。これらの影響を除くと若干の減収となりましたが、これは、低金利環境の逆風が続いたことによる影響が、預金の金利改定の実施、預金残高の前年同四半期からの増加およびバランスシート管理の取組みによる影響を上回ったためです。

**グローバル・トランザクション・バンキング**の収益は、前年同四半期から4%増加し、9億6,500万ユーロとなりました。これは主に、信用損失引当金の取戻しの増加やポートフォリオの見直しに向けた施策の影響を反映したものです。キャッシュ・マネジメントの収益は、米国における低金利環境の逆風の影響が金利改定やバランスシート管理の取組みによる影響を上回ったため、信用損失引当金の取戻しを除くと、減収となりました。貿易金融および貸出しの収益は、主に信用損失引当金の取戻しを反映して、前年同四半期から若干増加しました。証券サービスおよび法人信託・取次ぎサービスの収益は、主に米国における低金利環境の逆風の影響を反映して、減少しました。

**コマース・バンキング**の報告ベースの収益は、ポートフォリオの見直しに向けた施策の影響により、前年同四半期と同水準を維持しました。これらの施策による影響を除くと、低金利環境の逆風の影響が取引高や手数料収入の増加を相殺したため、若干の減収となりました。

2020年第2四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期における4億9,100万ユーロののれんの減損が発生しなかったことを反映して、前年同四半期から27%減少し、11億ユーロとなりました。**改革費用を除く調整済コスト**は、コスト削減の取組みの影響が内部サービスコストの配分の増加により相殺されたため、前年同四半期とほぼ同水準となりました。2020年第2四半期の利息以外の費用には、8,100万ユーロの訴訟費用が含まれています。

**信用損失引当金**は、前年同四半期の6,100万ユーロに対し、2020年第2四半期は1億4,500万ユーロとなりました。この増加は、主に2020年3月31日時点に比べてマクロ経済の見通しが悪化したことや、特定の顧客に対する信用損失引当金がいくつか発生したことによるものですが、保証に関する会計処理の変更による一時的な利益により一部相殺されました。

**税引前利益**は7,700万ユーロとなりました。改革費用ならびに再編および退職費用を除いたベースでは、9,100万ユーロの調整後税引前利益を計上しました。

**2020年上半期**において、コーポレート・バンクは2億800万ユーロの**税引前利益**を計上しました。再編および退職費用、改革費用およびのれんの減損を調整した**調整後税引前利益<sup>1</sup>**は、2019年上半期の5億2,000万ユーロに対し、2020年上半期は2億5,900万ユーロとなりました。この減少は主に、2020年におけるマクロ経済の見通しの悪化や訴訟費用の増加を主な要因とする、信用損失引当金の増加によるものです。

## コーポレート・バンク (CB) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年 6月30日に 終了の 3カ月間	2019年 6月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 6月30日に 終了の 6カ月間	2019年 6月30日に 終了の 6カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
グローバル・トランザクション・ バンキング	965	932	33	4	1,933	1,916	16	1
コマーシャル・バンキング	363	362	1	0	721	720	1	0
<b>純収益合計</b>	<b>1,328</b>	<b>1,294</b>	<b>34</b>	<b>3</b>	<b>2,653</b>	<b>2,636</b>	<b>18</b>	<b>1</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>145</b>	<b>61</b>	<b>84</b>	<b>136</b>	<b>251</b>	<b>106</b>	<b>145</b>	<b>137</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	254	261	(7)	(3)	527	531	(4)	(1)
一般管理費	852	745	107	14	1,662	1,486	176	12
のれんおよびその他無形資産の減損	0	491	(491)	N/M	0	491	(491)	N/M
再構築費用	0	13	(13)	(99)	5	13	(8)	(60)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>1,106</b>	<b>1,509</b>	<b>(403)</b>	<b>(27)</b>	<b>2,194</b>	<b>2,521</b>	<b>(327)</b>	<b>(13)</b>
非支配株主持分	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
<b>税引前利益(損失)</b>	<b>77</b>	<b>(277)</b>	<b>354</b>	<b>N/M</b>	<b>208</b>	<b>9</b>	<b>199</b>	<b>N/M</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	241	232	9	4	241	232	9	4
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	120	118	2	1	120	118	2	1
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>1</sup>	7,549	7,689	(139)	(2)	7,549	7,689	(139)	(2)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## インベストメント・バンク (IB)

**2020年第2四半期の純収益**は、前年同四半期から46%増加し、27億ユーロとなりました。特定項目を除くと、収益は52%増加しました。増収は、顧客フローや市場環境が堅調であったことによるものですが、これは当行の絞った顧客戦略に基づいて進行中の顧客関係の再構築に支えられたものでした。

**債券および為替 (FIC) セールス/トレーディング**の収益は、報告ベースで39% (特定項目を除くと46%) 増加し、21億ユーロとなりました。金利、外国為替およびエマージング・マーケットにおける収益は、顧客取引の増加およびボラティリティの上昇により、大幅な増収となりました。クレジット・トレーディングの収益は、すべての市場でフロー・クレジットの業績が大きく向上したことを受け増収となりました。ファイナンスの収益は、前年同四半期とほぼ同水準でしたが、厳しい市場環境にあった2020年第1四半期からは大幅に回復しました。

**オリジネーションとアドバイザー**の収益は、73%増加して6億3,900万ユーロとなりましたが、これは投資適格債券における過去最高の取引量や市場シェア拡大 (出所: ディールロジック) を反映した、債券オリジネーションにおける92%の大幅な増収によるものでした。株式オリジネーションの収益もまた、市場取引高の増加を受けて大幅に増加しましたが、この増収はアドバイザーの収益が市場取引高の低下を受けて減少したことにより一部相殺されました。

**利息以外の費用**は、訴訟費用の減少などを反映して前年同四半期から14%減少し、13億ユーロとなりました。改革費用を除く調整済コストは、前年同四半期から7%減少しましたが、これは主に2019年に行われた人員削減や内部サービスコストの配分の削減によるものです。

**信用損失引当金**は3億6,300万ユーロとなり、貸出金に対する割合は182ベースポイントでした。信用損失引当金は、新型コロナウイルス感染症の影響を反映して大幅に増加しました。

**税引前利益**は9億5,600万ユーロとなり、税引後有形株主資本利益率は11.5%でした。前年同四半期の税引前利益は2億1,800万ユーロで、税引後有形株主資本利益率は2.3%でした。

2020年上半期において、インベストメント・バンクの税引前利益は、前年上半期の4億7,000万ユーロに対し、16億ユーロとなりました。特定項目、再編および退職費用ならびに改革費用を調整したベースによる調整後税引前利益<sup>1</sup>は、2019年上半期の4億4,000万ユーロに対し、16億ユーロでした。この増益は、前年上半期と比べ大幅に収益が増加し、調整済コストおよび訴訟費用が減少したことによるものですが、新型コロナウイルス感染症による信用損失引当金の増加によって一部相殺されました。

## インベストメント・バンク (IB) 業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2020年 6月30日に 終了の 3カ月間	2019年 6月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 6月30日に 終了の 6カ月間	2019年 6月30日に 終了の 6カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
債券および為替(FX)セールス/ トレーディング	2,050	1,475	576	39	3,904	3,116	788	25
株式オリジネーション	120	42	78	184	140	65	75	115
債券オリジネーション	470	244	226	92	838	536	302	56
アドバイザー	48	82	(34)	(42)	118	193	(75)	(39)
オリジネーションおよびアドバイザー	639	369	269	73	1,096	794	302	38
その他	(35)	(21)	(14)	67	(8)	(99)	91	(92)
<b>純収益合計</b>	<b>2,654</b>	<b>1,823</b>	<b>831</b>	<b>46</b>	<b>4,993</b>	<b>3,811</b>	<b>1,182</b>	<b>31</b>
信用損失引当金繰入額	363	44	319	N/M	606	51	555	N/M
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	463	482	(18)	(4)	958	984	(26)	(3)
一般管理費	855	1,048	(193)	(18)	1,832	2,267	(435)	(19)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	11	15	(4)	(26)	15	21	(6)	(29)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>1,329</b>	<b>1,544</b>	<b>(215)</b>	<b>(14)</b>	<b>2,804</b>	<b>3,272</b>	<b>(467)</b>	<b>(14)</b>
非支配株主持分	6	18	(11)	(64)	5	18	(14)	(73)
<b>税引前利益</b>	<b>956</b>	<b>218</b>	<b>739</b>	<b>N/M</b>	<b>1,578</b>	<b>470</b>	<b>1,108</b>	<b>N/M</b>
資産合計(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	594	521	74	14	594	521	74	14
貸出金(貸引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	80	69	10	15	80	69	10	15
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>1</sup>	4,182	4,604	(422)	(9)	4,182	4,604	(422)	(9)

## プライベート・バンク (PB)

2020年第2四半期の純収益は、前年同四半期から5%減少し、20億ユーロとなりました。この減少は、ドイツにおける法的統合の完了、デジタル・ベンチャー事業の調整、イタリアにおける新たに中核となる銀行業務基盤の導入など、戦略的目標の実行に関する一定の事項を反映したものです。プライベート・バンクは、2020年第2四半期においてインターナショナル・プライベート・バンクの新設を発表しました。新型コロナウイルス感染症および継続している預金マージン圧縮による収益へのマイナスの影響は、取引高の増加などにより一部相殺されました。

プライベート・バンク(ドイツ)の収益は、前年同四半期から5%減少し、12億ユーロとなりました。これは、ドイツにおける法的統合の完了やデジタル・ベンチャーへの投資の評価調整など、戦略的目標の実行に関連する一定の事項を反映したものです。新型コロナウイルス感染症および継続している預金マージン圧縮による影響は、貸出金残高および投資商品からの手数料収入の増加により一部相殺されました。プライベート・バンク(ドイツ)は、主に住宅ローンからなる新規顧客への20億ユーロの貸出金を計上し、また投資商品において20億ユーロの純資金流入を得ました。

プライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス(インターナショナル)の収益は、前年同四半期から12%減少し、3億2,400万ユーロとなりました。これは、新型コロナウイルス感染症によるロックダウン、イタリアにおける再ヘッジのための一回限りの費用および継続している預金マージン圧縮による



ものです。2020年第2四半期中に、プライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス（インターナショナル）は投資商品において10億ユーロの純資金流入を得ました。

**ウェルス・マネジメント**の収益は、前年同四半期から1%減少し、4億2,400万ユーロとなりました。ウェルス・マネジメントでは、顧客担当者の採用継続を含む成長への投資の恩恵を引き続き受けましたが、これによる事業の成長が、低金利環境の逆風、新型コロナウイルス感染症による顧客取引への影響および2020年第1四半期における時価の減少による運用資産の平均残高の減少による減収を軽減しました。2020年第2四半期の投資商品における純資金流入は30億ユーロで、エマージング・マーケット、ドイツおよび米州の全般において流入が見られました。ウェルス・マネジメントはまた、2020年第2四半期において、顧客への10億ユーロの純新規貸出金を含む貸出残高を増加させました。

プライベート・バンクの**運用資産**は、主要な株式市場の一部回復および60億ユーロの純資金流入を反映して、2020年第2四半期において300億ユーロ増加しました。

**利息以外の費用**は、前年同四半期に計上された5億4,500万ユーロののれんの減損が発生しなかったことから、15%減少し、20億ユーロとなりました。2020年第2四半期の利息以外の費用には、増加した再編および退職費用1億4,400万ユーロ、ならびに改革目標達成に向けて増加した改革費用3,900万ユーロが含まれるとともに、訴訟費用に関する7,500万ユーロも含まれます。

**改革費用を除く調整済コスト**は、内部サービスコストの配分が増加したにもかかわらず、4%減少し、17億ユーロとなりました。この減少は主に、これまでの人員削減および組織再編の効果を反映したものです。プライベート・バンク（ドイツ）は、2020年第2四半期において、統合による約7,500万ユーロのコストシナジーを達成しました。

**信用損失引当金**は、3月31日時点に比べマクロ経済の見通しが悪化したことを反映して、2億2,500万ユーロに増加し、貸出金に対する割合は39ベースポイントとなりました。前年同四半期に計上した6,200万ユーロの信用損失引当金は、ポートフォリオの売却益の増加を反映したものでした。

**税引前損失**は2億4,100万ユーロとなり、前年同四半期から損失は22%減少しました。特定収益項目、再編および退職費用ならびに改革費用の影響を調整したベースでは、税引前損失は8,000万ユーロでした。

**2020年上半期**において、プライベート・バンクの**税引前損失**は、前年上半期の9,800万ユーロに対し、1億800万ユーロとなりました。特定収益項目、再編および退職費用、改革費用ならびにのれんの減損の影響を調整したベースによる**調整後税引前利益**<sup>1</sup>は、2019年上半期の3億6,700万ユーロに対し、1億1,800万ユーロとなりました。この調整後税引前利益の前年上半期からの減少は、主に、新型コロナウイルス感染症によるマクロ経済の見通しの変化およびポートフォリオの売却益の減収により、信用損失引当金を増額したことによるものでした。

## プライベート・バンク (PB) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	6月30日に 終了の 3カ月間	6月30日に 終了の 3カ月間			6月30日に 終了の 6カ月間	6月30日に 終了の 6カ月間		
<b>純収益:</b>								
プライベート・バンク(ドイツ)	1,233	1,291	(59)	(5)	2,559	2,630	(71)	(3)
プライベート・アンド・コマース・ビジネス (インターナショナル) <sup>1</sup>	324	366	(42)	(12)	694	725	(32)	(4)
ウェルス・マネジメント	424	429	(5)	(1)	890	857	33	4
<b>純収益合計</b>	<b>1,981</b>	<b>2,087</b>	<b>(106)</b>	<b>(5)</b>	<b>4,142</b>	<b>4,212</b>	<b>(70)</b>	<b>(2)</b>
内:								
純利息収益	1,253	1,276	(23)	(2)	2,546	2,579	(32)	(1)
手数料およびフィー収益	674	701	(27)	(4)	1,523	1,444	80	6
その他の収益	54	111	(57)	(51)	73	190	(117)	(62)
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>225</b>	<b>62</b>	<b>163</b>	<b>N/M</b>	<b>364</b>	<b>169</b>	<b>195</b>	<b>115</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	736	750	(14)	(2)	1,482	1,507	(24)	(2)
一般管理費	1,157	1,054	103	10	2,238	2,128	110	5
のれんおよびその他無形資産の減損	0	545	(545)	N/M	0	545	(545)	N/M
再構築費用	104	(12)	117	N/M	166	(39)	205	N/M
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>1,997</b>	<b>2,336</b>	<b>(339)</b>	<b>(15)</b>	<b>3,887</b>	<b>4,141</b>	<b>(254)</b>	<b>(6)</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>(0)</b>	<b>(0)</b>	<b>0</b>	<b>(97)</b>	<b>(0)</b>	<b>(0)</b>	<b>0</b>	<b>(86)</b>
<b>税引前利益(損失)</b>	<b>(241)</b>	<b>(311)</b>	<b>70</b>	<b>(22)</b>	<b>(108)</b>	<b>(98)</b>	<b>(11)</b>	<b>11</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>2</sup>	290	289	1	0	290	289	1	0
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) <sup>2</sup>	232	222	9	4	232	222	9	4
運用資産(単位: 十億ユーロ) <sup>2</sup>	471	478	(6)	(1)	471	478	(6)	(1)
純資金流入(単位: 十億ユーロ)	6	4	2	35	7	11	(4)	(39)
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>2</sup>	31,328	32,431	(1,103)	(3)	31,328	32,431	(1,103)	(3)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

<sup>1</sup> イタリア、スペイン、ベルギーおよびインドでのオペレーションが含まれる。

<sup>2</sup> 四半期末時点

## アセット・マネジメント (AM)

**2020年第2四半期の純収益**は、前年同四半期から8%減少し、5億4,900万ユーロとなりました。これは主に、前年同四半期に計上されていた定期的な運用報酬が発生しなかったことによるものです。

マネジメント・フィーは、前年同四半期から6%減少し、5億800万ユーロとなりました。これは、業界全体のマージンの減少を反映したのですが、保証の公正価値の有利な変動によるその他収益の増加により相殺されました。

**2020年第2四半期の純資金流入**は90億ユーロとなりました。これは、困難な市場環境において多様化した事業モデルによる恩恵を受けたことを示すものです。この純資金流入は、パッシブ、現物およびアクティブ株式からの純資金流入が債券の純資金流出を上回ったことによるものです。

**運用資産**は、前年同四半期から450億ユーロ増加し、7,450億ユーロとなりました。これは主に、プラスの市場パフォーマンスと純資金流入によるものですが、外貨換算による変動の影響により一部相殺されました。

**利息以外の費用**は、前年同四半期から15%減少し、4億ユーロとなりました。**改革費用を除いた調整済コスト**は、前年同四半期に計上されていた運用報酬に関連する業績連動の報酬が発生しなかったことおよびコスト削減の取組みが順調に実施されたことを反映して、13%の減少となりました。

**税引前利益**は、前年同四半期から27%増加し、1億1,400万ユーロとなりました。調整後税引前利益は、前年同四半期から13%増加し、1億3,200万ユーロとなりました。

2020年上半期におけるアセット・マネジメントの税引前利益は、2019年上半期の1億8,600万ユーロに対し、2億2,400万ユーロでした。

## アセット・マネジメント (AM) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年 6月30日に 終了の 3カ月間	2019年 6月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2020年 6月30日に 終了の 6カ月間	2019年 6月30日に 終了の 6カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
マネジメント・フィー	508	539	(31)	(6)	1,061	1,048	13	1
運用報酬および取引フィー	20	66	(46)	(70)	37	77	(39)	(51)
その他	21	(11)	32	N/M	(30)	(6)	(24)	N/M
<b>純収益合計</b>	<b>549</b>	<b>594</b>	<b>(45)</b>	<b>(8)</b>	<b>1,068</b>	<b>1,119</b>	<b>(51)</b>	<b>(5)</b>
信用損失引当金繰入額	(1)	0	(1)	N/M	(0)	0	(0)	N/M
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	204	228	(24)	(11)	376	427	(51)	(12)
一般管理費	189	217	(28)	(13)	386	413	(26)	(6)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	7	27	(19)	(73)	10	29	(18)	(64)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>400</b>	<b>471</b>	<b>(71)</b>	<b>(15)</b>	<b>774</b>	<b>869</b>	<b>(95)</b>	<b>(11)</b>
非支配株主持分	36	33	3	9	70	64	7	11
<b>税引前利益</b>	<b>114</b>	<b>89</b>	<b>24</b>	<b>27</b>	<b>224</b>	<b>186</b>	<b>38</b>	<b>20</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	10	10	0	3	10	10	0	3
運用資産(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	745	721	24	3	745	721	24	3
純資金流入(単位: 十億ユーロ)	9	4	5	109	6	7	(0)	(6)
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>1</sup>	3,901	3,998	(97)	(2)	3,901	3,998	(97)	(2)

## コーポレートおよびその他 (C&O)

コーポレートおよびその他においては、2019年第2四半期は1億100万ユーロの税引前利益であったのに対し、2020年第2四半期は1億5,200万ユーロの税引前損失となりました。

純収益は、主に前年同四半期にあった評価および期間による収益が発生しなかったことにより、2019年第2四半期は1億8,400万ユーロの純収益であったのに対し、2020年第2四半期は1億5,400万ユーロのマイナス収益となりました。資金調達コストおよび流動性費用は前年同四半期から増加し、資金移動にかかる価格設定の変動も同様の傾向となりました。

2020年第2四半期の利息以外の費用は、2019年第2四半期が1億3,100万ユーロであったのに対し、4,000万ユーロとなりました。これは主に、株主費用の減少および計画より低いインフラ費用によりコーポレートおよびその他における利益を維持できたことによるものでした。

2020年上半期において、2019年上半期は8,600万ユーロの税引前利益であったのに対し、1億7,600万ユーロの税引前損失を計上しました。この減少は主に、評価および期間差異におけるマイナスの影響や資金調達および流動性の費用の増加によるものでした。

## コーポレートおよびその他 (C&O) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	6月30日に 終了の 3カ月間	6月30日に 終了の 3カ月間			6月30日に 終了の 6カ月間	6月30日に 終了の 6カ月間		
<b>純収益</b>	<b>(154)</b>	184	(338)	N/M	<b>(91)</b>	168	(259)	N/M
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>1</b>	2	(2)	(78)	<b>5</b>	2	2	98
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	943	1,001	(58)	(6)	1,893	2,009	(115)	(6)
一般管理費	(905)	(870)	(35)	4	(1,737)	(1,847)	109	(6)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	1	(0)	2	N/M	0	(0)	0	N/M
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>40</b>	131	(91)	(70)	<b>156</b>	162	(6)	(4)
<b>非支配株主持分</b>	<b>(42)</b>	(51)	8	(17)	<b>(75)</b>	(82)	7	(8)
<b>税引前損益(損失)</b>	<b>(152)</b>	101	(254)	N/M	<b>(176)</b>	86	(262)	N/M
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>1</sup>	39,327	40,914	(1,587)	(4)	39,327	40,914	(1,587)	(4)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## キャピタル・リリース・ユニット (CRU)

2020年第2四半期の**純収益**は、7,000万ユーロのマイナス収益となりました。収益はリスク削減コストの影響を受けましたが、以前計上した調達評価調整の戻入れやプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用により一部相殺されました。2019年第2四半期は、2億2,100万ユーロの純収益でした。この前年同四半期からの減少は、株式セールス/トレーディング事業から撤退したことや、2019年第3四半期のキャピタル・リリース・ユニット新設の一環としての債券業務を最適化する取り組みを反映したものでした。

2020年第2四半期の**利息以外の費用**は、5,400万ユーロの銀行税の発生を含め、4億9,600万ユーロとなりました。2019年第2四半期の利息以外の費用は、9億9,500万ユーロでした。利息以外の費用の減少は主に、前年同四半期に計上された改革費用が発生しなかったことによるものでした。

2020年第2四半期の改革費用を除く**調整済コスト**は、2019年第2四半期から30%減少し、4億3,000万ユーロとなりました。これは主に、内部サービスコストの配分の減少、人員削減を反映した報酬関連費用の減少および銀行税を除く非報酬関連費用の減少によるものです。

**税引前損失**は、前年同四半期の7億6,600万ユーロに対し、5億9,500万ユーロとなりました。

2020年第2四半期末の**リスク・ウェイトド・アセット**は、2020年第1四半期末から僅かに減少して、430億ユーロとなりました。これはリスク削減の30億ユーロの恩恵が、新型コロナウイルス感染症による市場関連のRWA(主としてマーケット・リスクRWA)の増加により一部相殺されたことによります。**レバレッジ・エクスポージャー**は、2020年第1四半期の1,180億ユーロから減少して、1,020億ユーロとなりました。これはリスク削減、バランスシートの最適化および市場の変動の影響によるものでした。キャピタル・リリース・ユニットは、前年同四半期から、リスク・ウェイトド・アセット(RWA)を220億ユーロ、レバレッジ・エクスポージャーを1,470億ユーロ削減しました。

**2020年上半期**において、キャピタル・リリース・ユニットは、14億ユーロの**税引前損失**、1億2,900万ユーロのマイナス収益、12億ユーロの利息以外の費用を計上しました。2019年上半期においては、13億ユーロの税引前損失でした。



## キャピタル・リリース・ユニット（CRU）業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2020年	2019年	変動額	増減 (%)	2020年	2019年	変動額	増減 (%)
	6月30日に 終了の 3カ月間	6月30日に 終了の 3カ月間			6月30日に 終了の 6カ月間	6月30日に 終了の 6カ月間		
純収益	(70)	221	(291)	N/M	(129)	608	(737)	N/M
信用損失引当金繰入額	29	(8)	37	N/M	43	(27)	69	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	45	92	(47)	(51)	97	221	(124)	(56)
一般管理費	451	895	(443)	(50)	1,093	1,711	(619)	(36)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	(0)	0	N/M	0	(0)	0	N/M
再構築費用	(0)	8	(9)	N/M	1	10	(9)	(93)
利息以外の費用合計	496	995	(499)	(50)	1,191	1,942	(751)	(39)
非支配株主持分	(0)	0	(0)	N/M	(0)	0	(0)	N/M
税引前利益(損失)	(595)	(766)	171	(22)	(1,362)	(1,307)	(55)	4
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	265	380	(114)	(30)	265	380	(114)	(30)
従業員数(フロントオフィス常勤相当) <sup>1</sup>	536	1,230	(694)	(56)	536	1,230	(694)	(56)

N/M: 意味のある比較不能

前年のセグメント別財務情報は、現在のセグメント区分を反映して修正再表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

### ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

### 将来の事象に関する記述はリスクを伴います

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2020年3月20日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また [www.db.com/ir](http://www.db.com/ir) からダウンロードすることができます。

### 会計の基準

上記の当行業績は、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計の2020年第1四半期からの適用（以下「EUカーブアウト」）が含まれます。2020年6月30日に終了した3か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の純収益および税引前利益に5,500万ユーロ、税引後利益に2,300万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2020年6月30日に終了した6か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の純収益および税引前利益に7,700万ユーロ、税引後利益に4,700万ユーロのプラスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EUカーブアウトを伴うIAS第39号を用いて報告しています。税引後利益への影響はCET1資本比率の計算にも影響し、2020年6月30日現在、約1ベースポイントのプラスの影響を与えています。い

れの期においても、EU カーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

#### GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当社が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP 以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP 以外の財務的測定尺度とは、当社の過去または将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当社の財務諸表において IFRS に従って計算および表示された最も直接に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当社の GAAP 以外の財務的測定尺度、およびこれと最も直接に比較可能な IFRS の財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度	最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度
ドイツ銀行株主に帰属する純利益	純利益
特定項目を除く収益	純収益
調整済コスト、改革費用を除く調整済コスト、改革費用およびプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除く調整済コスト	利息以外の費用
調整後税引前利益	税引前利益
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主持分合計（帳簿価額）
平均株主資本利益率（税引後）（ドイツ銀行株主に帰属する純利益に基づく）	平均株主持分合計利益率（税引後）
平均有形株主資本利益率（税引後）	平均株主持分合計利益率（税引後）
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	基本的流通株式1株当たり資産

**調整後税引前利益（損失）**は、IFRS に基づく税引前利益（損失）を、特定収益項目、改革費用、のれんその他の無形資産の減損ならびに再編および退職費用で調整して算出されます。

**特定収益項目**は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲してしまう可能性のある項目を指します。

**調整済コスト**は、IFRS に基づく利息以外の費用から、(i) のれんその他の無形資産の減損、(ii) 正味の訴訟費用、(iii) 再編および退職費用を控除して計算されます。

**改革費用**は、調整済コストに含まれる費用で、2019年7月7日に発表された新戦略による当社改革に直接関連する費用です。この費用には、改革に関連するソフトウェアおよび不動産の減損、ソフトウェアの加速償却額、ならびに義務負担付契約の引当金や戦略の実施に関する弁護士費用およびコンサルタント費用といったその他の改革費用が含まれます。

**改革に関連する影響**は、2019年7月7日に発表された戦略による財務上の影響です。これらの影響には、改革費用、2019年第2四半期におけるのれんの減損、ならびに2019年第3四半期以降の再編および退職費用が含まれます。上記の税引前の項目に加え、税引後ベースの改革に関連する影響には、上記の項目に関する税効果（資産ベース）および当社グループの改革に関連する繰延税金資産の評価調整額が含まれます。

#### **プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用**

ドイツ銀行と BNP パリバは、当行のプライム・ファイナンスおよび株式電子トレーディングのサービスを継続して顧客に提供するための基本取引合意に署名しました。この合意に基づき、当行は顧客が BNP パリバに移行することができるまで、プラットフォームの運営を継続することになり、移行した業務の費用は BNP パリバから返還される可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細およびそれらを算出するための最も直接に比較可能な IFRS の財務的測定尺度に対する調整については、補足財務データ（英文）の 3 頁から 13 頁および 17 頁から 29 頁の記載をご参照ください。